

サツマイモ基腐病情報第1号（サツマイモ）

令和5年4月21日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

もしかして、サツマイモ基腐病？ 定植時にはサツマイモ基腐病に注意しましょう！

全国でサツマイモ基腐病が発生しています。愛知県でも昨年発生が確認されました（令和4年度病害虫発生予察特殊報第2号）。苗で伝染しますので、定植時は消毒された健全な苗を用い、定植後は病気の発生がないか注意して観察しましょう。

1 サツマイモ基腐病（もとぐされびょう）について

（病原菌 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman)

糸状菌（カビの一種）が原因で、主にサツマイモ（ヒルガオ科）に感染する病害です。感染するとサツマイモの葉の変色やしおれ、生育不良がみられ、地際部の茎が黒変し、葉や茎が枯死し、いもが茎につながる方から腐敗します（図1）。他の病害に比べて感染力が強く、短期間で被害が拡大し、多発したほ場では大幅な減収となります。感染したサツマイモの残さは次作の感染源となります。



基部が黒変した苗



葉の変色・しおれ・生育不良



株の基部の黒変苗



縦断面

矢印：地下部の茎、諸梗、塊根に病徴（暗褐色）

○：外観ではわからないが、地下部の茎、諸梗の内部に病徴（褐変）が進んでいる。

塊根の腐敗

図1 サツマイモ基腐病の被害写真

2 防除対策

(1) 植え付け前

- ・発病ほ場から種芋を採取しない。
- ・**消毒された健全な苗を定植する。**
- ・病気が発生したほ場には植え付けない。
- ・使用した長靴や器具を洗浄する。
- ・排水不良の場所でまん延しやすいため、排水対策をする。

(2) 定植後

- ・発病株は速やかに抜き取り畑の外で処分する。
- ・薬剤を散布する（表を参照）。
- ・排水不良の場所でまん延しやすいため、排水対策をする。

(3) 収穫後

- ・発病株は感染源となるので、ほ場の外に持ち出し適切に処分する。
- ・発病した場合は土壌消毒を行う（表を参照）。
- ・発病ほ場では次作の作付けを行わない。

表 サツマイモ基腐病に対する主な防除薬剤（令和5年4月5日現在）

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
ベンレートT水和剤20	チウラム・ベノミル	植付前	1回	30分間苗浸漬	M3, 1
ベンレート水和剤	ベノミル	植付前	1回	30分間苗浸漬	1
Zボルドー	銅	-	-	散布	M1
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	収穫14日前まで	3回以内	散布	11
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	収穫前日まで	2回以内	散布	3
ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅	収穫前日まで	-	散布	NC, M1
バスアミド／ガスタード 微粒剤	ダゾメット	植付21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	M3
フロンサイド粉剤	フルアジナム	植付前	1回	全面土壌混和	29
フロンサイドSC	フルアジナム	植付前	1回	全面散布土壌混和	29

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。
FRACコード及び殺菌剤の耐性リスクの詳細は、
https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdfを参照する。
農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める

★サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。詳しい写真も多数掲載されています。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」の令和3年度版

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html

疑わしい症状を見つけた場合は、病害虫防除室（以下の連絡先）までお知らせください。

連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

電話：0561-62-0085（内線 471）